

## 国際会議報告

## AIC 2024 São Paulo 中間大会および通常総会参加報告

Report on the AIC2024 São Paulo General Assembly and Midterm Meeting

秋月 有紀 富山大学 Yuki Akizuki University of Toyama  
 槇 究 実践女子大学 Kiwamu Maki Jissen Women's University

ブラジルのサンパウロで開催された AIC2024 の中間大会と、期間中に開催された通常総会について報告する。

## 1. AIC 中間大会

2024年9月16日(月)~19日(木)にかけて、Color Design, Communication and Marketing というテーマで AIC 中間大会がブラジル・サンパウロで開催された<sup>1, 2)</sup>。会場となった ESPM 大学 (Escola Superior de Propaganda e Marketir) は今回のテーマに関連する分野で70年以上の伝統を誇る大学として知られており、会場となった建物の1階中庭に面する部屋々々にはカラフルな商品パッケージや様々デザインのドレス等が美しく配置されていた。会場の部屋はいずれも1階にあり、会場間の移動が楽だった。

著者兩名が南米で参加した AIC は、2016年のチリ・サンチャゴ・チリカトリック大学、2019年(中間大会)のアルゼンチン・ブエノスアイレス・ベルグラノ大学に次いで3度目である。回が進むにつれて治安の心配度合が高まり、最初は家族や知人が渡航を反対したが、お互いに行動を共にする同行者がいることで説得し、何とか参加にこぎつけた。他の方々のご賛同を得られなかったのか、AIC2024の現地参加日本人は我々5名だけだったように思われる(現地に参加されていた方がいらっしゃいましたら、気付くずに申し訳ありません)。南米で開催された3大会の AIC ロゴを図1に示す。カラフルな建築外観のバルパライソ(サンチャゴ近くの世界遺産都市)やモノトーン調のブエノスアイレスをイメージさせる2大会と比べ、サンパウロは世界中のどこでも見られる大都市の様相で、都市の特徴を色で表現するこ

とが難しい。一方フルーツはとても甘くて美味しく、それがロゴデザインに反映されたように思われた。

一日目はブラジルの植物や景観の絵画に関するワークショップや Welcome Reception が開催された。建物への入館はセキュリティカードが必要で、Reception 手続きの際に参加者全員がパスポート情報を提供して作成した(会終了後に要返却)。Welcome Reception は招待講演会場の前のホワイエ空間 PCA Area で行われ、参加者は50名程度であった。カナッペやサンドイッチがブラジル産白ワインと共に振舞われ、ESPM大学のサンバサークルのメンバーが太鼓やダンスのパフォーマンスを披露した。同行者らと「都市環境における色のエコロジー」について招待講演を行った Prof. Larissa Noury と一緒に撮った写真を図2に示す。



図2 Welcome Reception での記念撮影(右二人が著者ら、左3人も同行した日本人参加者)

二日目から四日目にかけて、4会場に分かれて招待講演・口頭発表・ポスター発表が行われた。

最も大きなホール ESPM Theater を利用した招待講演は8件あり、人工知能時代の色彩計画やアルゴリズムによるデジタルカラー表現、ブラジルの熱帯雨林の天然色素などの最新研究が紹介された。

口頭発表は50名ほどが入る2会場(Castelo Branco Auditorium, Civita Room)で行われた。テーマと発表件数は以下のとおりである：ブランディングとマー



図1 近年南米で開催された AIC 大会ロゴ

ケティングにおける色彩 (3), 測色と表色系 (4), 芸術・文化・歴史における色彩 (4+4+4), デザインと視覚情報における色彩 (3+4+4), 心理学と生理学における色彩 (4+5), 色彩教育 (4+4), 色彩意味論と記号論 (2), インテリアデザインと建築における色彩 (3+4+3), 色彩と消費者行動 (4), 特別セッションおもちやとゲーム (5).

ポスターセッションは三日目の夕方に 45 分間の枠で実施され, 18 件の発表があった。プログラム上では Welcome Reception 会場となっていたが, 実際は別室のカフェテリア空間に窓に貼り付ける形で開催された。窓の傍には学生が歓談する丸テーブルや椅子がそのまま残されており, ディスカッションを行うには邪魔になって発表者が少し苦勞されたようである。ポスターセッションの後に, 1.5 時間のワークショップも開催された。

三日目の夜には Gala Dinner が開催された。環境保護された熱帯雨林地域の中にあるレストラン SELVAGEM での開催で, 料理の評価も高く大変魅力的であったが, 帰りの交通手段の確保が難しいため参加を断念した。

最終日の四日目の午前中に通常総会が開催された。詳細については次章で報告する。総会会場は最も大きなホール ESPM Theater でなく Civita Room であったのは, 参加者が少なくオブザーバー参加が殆どないと予想されたからかもしれない。

最後に 3 件のポスター賞と 6 件の AIC 学生論文賞が表彰された。著者らは最後まで参加していなかったのでポスター賞については不明だが, AIC 学生論文賞は AIC のサイトで公開されており<sup>3)</sup>, 第 1 位～第 3 位はブラジルの大学生が受賞, 残り 3 名は中国, ブラジル, ポルトガルの大学生が受賞した。

## 2. 通常総会

堀内会長が所用により欠席された為, 楨が代理出席した総会について報告する。議題は 2 点であり, 会場で若干の修正が追加され, 採決の結果いずれも承認された。

1 点目は, AIC Sphere Award に関するものである。それは, AIC およびその会員に資する運営面での, もしくは事務的・技術的な貢献をした個人・チーム・グループに対して送られる。その選考主体, 選考方法, 守秘内容, 授賞式実施方法などを規定している。

2 点目は, 定款 (By-laws) の変更である。昨年度の総会で, 豪州シドニーからオーストリアのウィーンに本部が移転されることが決まり, その際に定款

についても変更が為されたが, 今回, その一部修正の動議が提出された。主な修正内容としては, affiliate member (会費を支払わない会員) を規定する項目の追加, 弁護士による指摘についての修正や文言追加, 運営体制に関する規定, 団体の代表者の規定, 規定の変更方法に関する記述などである。

## 3. おわりに

外務省海外安全ホームページによると, ブラジルの大サンパウロ圏は「レベル 1 : 十分注意してください」であり, 信号待ちの歩行者や渋滞停車中の車両を狙った拳銃使用の強盗事件が発生している<sup>4)</sup>。その中で AIC2024 参加を決断できたのは, 火災安全工学の国際会議で親しくさせて頂いていたサンパウロ大学建築都市学部の Prof. Rosaria Ono 先生が開催期間中に同行して下さる確証を得ていたからである。先生は日系人で日本語が堪能であり, 大学附属のパウリスタ博物館館長の任期終了後のサバティカル期間に AIC2024 が丁度重なったので, サンパウロ大学の案内だけでなく, 空港の送迎や市内観光まで四日間フルにお付き合いくださった。先生との会話の中で, “夜に車内でスマホを操作していたら信号待ちのタイミングで窓を割られて奪われそうになったことが三人家族で 2 回あった”と伺い, 治安の悪い旧市街セントロ地区を車内から見学する際に停車時は決してスマホで撮影しないように気を付けたものである。そんな私を見てにっこりと微笑み, “この地区にある消防本部には会議でしょっちゅう行くし, 高校生の一人娘はこのあたりでボランティアをするのよ”とおっしゃった先生を見て, ブラジルの人々の強さを感じ取ることができた。市営市場やスーパーなど市井の人々が普段利用している場所にも訪れることができ, ブラジルの日常生活をほんの少し理解することもできた。スーパーの生鮮食品の展示は日本よりもずっと色鮮やかだったように感じたのは気のせいだろうか。AIC は世界中のどこかの場所で毎年開催される。芸術・文化・生活基盤など大きく異なるカラフルな世界を経験するため, 今後も AIC に参加したいと思っている。

### 関連情報掲載サイト

- 1) <https://aic2024.org/>
- 2) <https://aic2024.org/home/venue-travel/>
- 3) <https://aic-color.org/award-student-paper>
- 4) [https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo\\_2023T094.html#ad-image-0](https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo_2023T094.html#ad-image-0)

(いずれも最終閲覧日: 2025 年 1 月 18 日)